

サンガスタジアム byKYOCERA を核としたス ポーツ・地域 振興施策



- 健康福祉総務課 桂 省吾（代表）
- 南丹広域振興局農林商工部 竿山 菜々子
- 医療課 藤田 裕佳
- 府立医科大学事務局経理課 飯島 弘文
- 高齢者支援課 中島 瑛里子
- 南丹市観光交流室 中野 修

後見人部局：政策企画部、文化スポーツ部、
商工労働観光部、南丹広域振興局

研究概要

- サンガスタジアムbyk y o c e r aは昨年竣工、開業の大規模スポーツ施設で、府民のスポーツ振興の拠点、更には府中北部へのゲートウェイとしても期待されている。
- スタジアムの集客力アップや地域の魅力向上、ゲートウェイ機能の発揮等のため、府・市・管理者・クラブチーム等様々な主体が工夫を凝らした施策を展開している
- 当グループでは、更に新たな視点や発想での施策提案が出来ないか研究に取り組む。

既存施策の状況

- スタジアム・周辺地域活性化に向けて府・市・ビバ&サンガ社（指定管理者）等関係団体がスポーツ振興、観光交流振興を推進

例：VR・eスポーツ環境整備、国内最高スペックのボルダリングウォール整備、大河ドラマ館終了後に保育園設置、駅前マルシェ、保津川下り上流船着き場整備、イベント主催団体へのセールス活動、スタジアムの周辺の交通対策等

- 京都サンガF C（クラブチーム）は、J 1 昇格を最重点目標とすると同時に、地域・社会貢献活動にも積極的に取り組んでいる。

例：キッズ向け教室・介護予防クリニック・児童虐待防止啓発イベント等への参加。

スタジアムをめぐる課題

- イベント誘致や附帯施設への入居者誘致は未知数。
- 京都サンガF Cが行っている社会貢献活動は、府民に幅広く浸透しているとは言えない。
- スタジアム周辺の住民や商業者等が、スタジアムに親近感を持っているとは（まだ）言えない。
- スタジアム指定管理者のビバ&サンガ社は施設運営・イベント誘致等に注力。
- 施設活性化の先に見据えるべき府中北部へのゲートウェイ機能の発現へは、確たる道筋が見えない。
- 更に新型コロナウイルス感染症により、開催試合・イベントに大きな影響が出ている。

（JFA U-18女子サッカーファイナルズ2020（9.19～21）中止 等）

→指定管理者、サンガF Cの収益への懸念。

地域の課題（在住者の家族等から）

- 京都市へのアクセスは良好。反面、若い世代の流出人口が多い
- なんでもありそうで、実は目玉になるインパクトの強いものがない。若者が遊べる所がない
- 新興住宅地を増やすなど、外部からの移住を積極的に受け入れる一方、田園風景の景観が損なわれたり地域文化の希薄化が見受けられる
- 住民は地域に愛着がある一方、祭りなど地域の文化・行事の担い手が減少している
- 町内、地域のつながりが弱体化している
- そもそも旧町間での交流が少なく、一つのまちとしての一体感が薄い





エリア外からの集客は重要
一方、周辺地域・住民との繋がりは…？



より「身近なスタジアム」を目指す

先進事例調査（Zoomインタビュー）

オランダ・アイントホーフェン
More2Win社
ティム・ヴァン・ドーレン代表

■スポーツによって地域にメリット
（＝社会課題の解決）をもたらす
ことを追求してイベント企画

○歩行困難な障害者参加マラソンイベントの開催、視覚障害者向けサッカーコート（クライフコート）の開設

○柔道を取り入れた高齢者向け転倒防止プログラム。
介護予防モデル事業として保険会社からの委託事業

○イベントボランティアに難民による支援チームを派遣。難民が地域に溶け込み、就業に繋げる



○活動は大半が行政機関からの委託事業としてのもの。
○政府レベルで社会的起業（ソーシャル・アントレプレナー）を後押し。

先進事例調査（Zoomインタビュー）

神戸市
マイスターフットボールクラブ
井口部長

■青少年地域サッカークラブが、
SDGs・地域貢献を主眼においた
新たなサッカーグラウンド、クラブ
ハウスを整備(2021冬～予定)

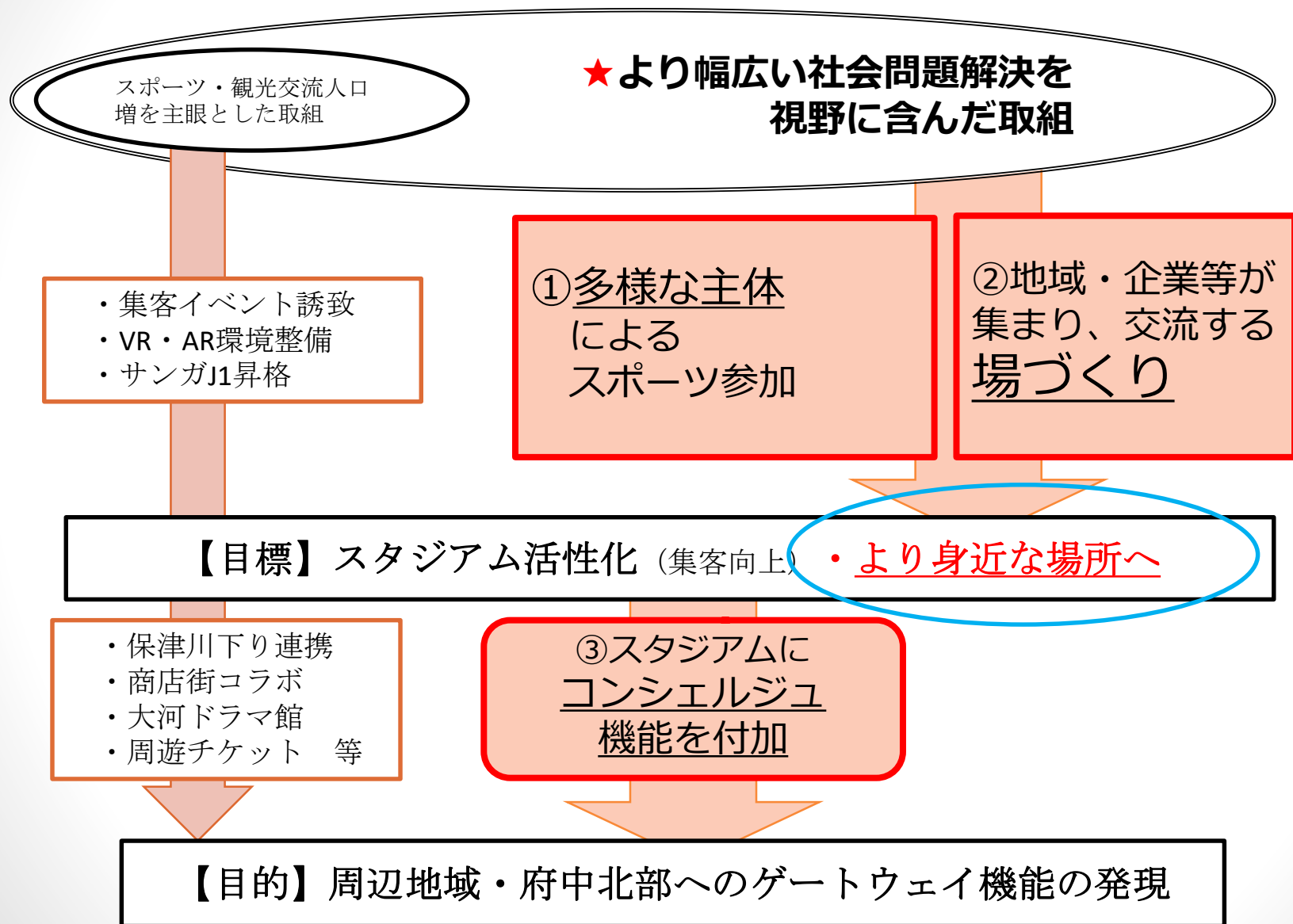
○ピッチ下に雨水貯留装置
(気化冷却による温暖化対策)
壁の部材に砂漠の砂を原料にしたコン
クリートブロック使用(途上国の雇用創
出)

○フリーアクセスをキーワードに、クラブ
ハウスの一部を地域に開放し、コミュ
ニティスペースとして活用してもらう



○地元調整(グラウンド建設の同意
等)にあたり、地域の課題(人口減少、
耕作放棄地等)を丁寧に聞く
○地域課題解決の一助となるような
施設…地域を巻き込む
○地域の中高年が気軽にスポーツ観
戦等に親しむ文化づくり目標(ヨー
ロッパをモデルに)

提案の方向性



提案施策①

★多様な主体によるスポーツ参加

【高齢者のスポーツ参加・健康向上】

- ・ サンガ F C コーチ、選手による高齢者向け健康アカデミー事業、ウォーキングサッカー交流会
- ・ ビバ＆サンガ社による高齢者向けフィットネスプログラムを展開（ビバ社は従来フィットネス事業を展開）

- ◆ 亀岡市内各自治会の
セーフコミュニティ運動
（体操プログラムの実施等）
- ・ 高齢者福祉施設等と連携



提案施策①

★多様な参加者によるスポーツ参加

【障害者のスポーツ参加】

- ・天然芝コートを活用してのボッチャ、スクエアボッチャ等障害者向けスポーツイベントの開催
- ◆（一社）京都障害者スポーツ振興会と連携



【子どものスポーツ参加】

- ・地域のスクールより更に裾野の広い層へサッカー体験会を実施
- ・（小中学校）学区対抗サッカー交流戦の実施

提案施策②

★住民・企業が集まり、交流する場づくり

- フードコートエリア等を活用し地元自治会、団体等の休憩・交流スペースを設置
- スタジアムの会議室機能を活用した、行政機関・企業 N P O 等混合の企業合宿の企画

(参考事業スキーム：「アクティブワーキング」)

アクティブワーキングとは・・・ある特定地域に複数の起業家や専門家が短期滞在し（1～2週間程度）、現地でのリモートワークや地域の事業者、生活者との対話を通して新たな事業機会を発掘・創発するプログラム



アクティブワーキング実施風景



サンガスタジアム会議スペース（VIPラウンジ）

提案施策③

★スタジアムでのコンシェルジュ機能の強化

- スタジアムトイレ付近での観光ポスターの掲出
- デジタルサイネージによる中北部でのアクティビティ紹介コーナーの紹介

※各DMOと連携

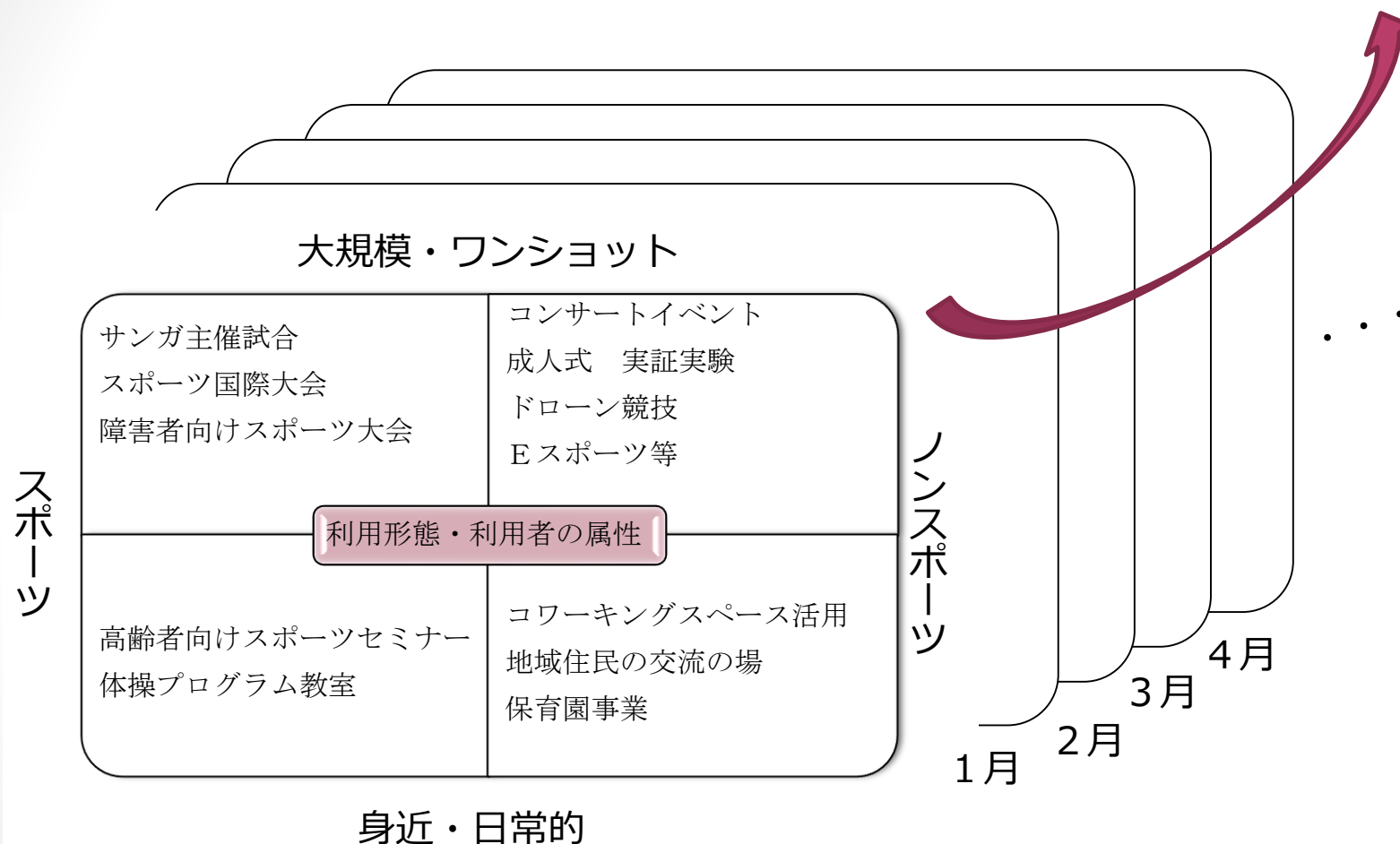
※掲示物にはQRコードを付記し、オンライン予約や施設サイト等への即時の接続を重視

- サンガ主催試合（年間21試合）
に、中丹・丹後地域物産展を常設化



サイネージ展示の例（ピクサー展から）

施設マネジメントの観点から



★利用者の幅広い属性、頻度、活用形態に対応して
施設の利活用計画をマネジメントしていく

予算・事業について

- 既存補助金の重点配分【既存】
 - ・ 市町村向け
 - …京都府市町村連携交付金（R3 19億円）
 - ・ NPO等地域団体向け
 - …京都府地域交響プロジェクト交付金（R3 3.2億円）
- スタジアム指定管理料による対応（R3 7千万円）【既存】
 - ・ 施設を活用する地域団体の使用料減免
- スタジアム産官学・地域交流事業費【新規】④要求2,000千円
 - ・ スタジアムの会議室機能を活用した、企業・NPO・行政機関等混合の企業合宿（アクティブワーキング）実施経費
年間4回 × 500千円／1回（5～10社程度参加）
- 行政職員の配置【新規】
 - ・ 取組みの仕掛け役・コーディネーター役として
京都府職員をスタジアムに配置
 - ・ 亀岡市役所のサテライトオフィス設置

ロードマップ

提案施策	令和3年度	令和4年度	令和5年度
①多様な主体によるスポーツ参加	☞ 関係機関と調整 ☞ 可能なものから実施開始	☞ イベントの本格実施(京都サンガFC、ビバ社、京都障害者スポーツ振興会)	☞ 参画団体の拡大(医療・福祉法人等)
②地域・企業等が集まり交流する場づくり	☞ スポットの交流イベント実施 ☞ 地域と意見交換	☞ 交流イベント継続 ☞ 1Fフロアの一部をコミュニティスペースとして解放	☞ 解放するスペースの拡大 ☞ 一部スペースの運営管理を地元自治会等に委託
③スタジアムにコンシェルジュ機能を付加	☞ DMOと実施内容調整 ☞ 足湯デジタルサイネージにPR映像	☞ スタジアムコンコースにPRパネル常設化 ☞ (サンガ主催試合)3つの京都物産展開催	

スタジアムを中心に目指す姿

提案施策	令和3年度	令和4年度	令和5年度
①多様な主体によるスポーツ参加	・様々な障壁により運動機会減少 ・フレイル増加懸念	○健康寿命の向上 ○地域内、地域間、階層間の交流増加	○府域・地域をとりまく課題の解決 ○スタジアムがより身近な場所に
②地域・企業等が集まり交流する場づくり	・地域のつながり希薄化 ・地域文化・行事の担い手不足	○新たな観点からの課題解決策検討	○スタジアム集客の向上
③スタジアムにコンシェルジュ機能を付加	○府中北部地域へのゲートウェイ機能の発現		

最後に

サンガスタジアムは、観客とピッチの
距離が非常に近いスタジアム

※客席からピッチまでの距離…最短で7.5m。PK距離(11m)より近い



サッカーだけでなく

**より多くの人から「近い」
と感じてもらえるスタジアムに！**

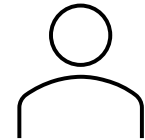
補足資料

(取材記録抜粋等)

(補足) ステークホルダーの声



(京都サンガF C事務局)
サンガは選手の教育的視点も持ち、若い選手の地域貢献活動に積極的。ただ周知できていない。イベントにも、熱心なサンガサポーターは来るが、それほど関心の高くない層の取り込みが課題



(亀岡市役所)
(スタジアム立地の) 駅北での開発を、駅南地区は冷ややかに見ていると感じることもある



(スタジアム指定管理会社)
府北部へのゲートウェイ機能は当社としても多いに期待している
年間100日は稼働させたいが、サンガ主催試合は21試合

スタジアム周辺にもっと集客力のある施設、遊べる場所が欲しい。まちづくりとして進めて欲しい
そうしないと人の寄りつかない要塞になってしまう

（補足）施策提案につながりそうな関係団体・行政機関の声



（府健康対策課）
今後は働き盛り世代、健康無関心層をターゲットに施策展開していく。
現在特定市町村とタイアップしてスマホアプリを使ったウォーキング&景品交換事業を実施。これはあくまで府民の健康対策が目的

※網掛け吹き出しは
当ベンチャー事業グループの検討・意見

景品面等でサンガと連携し、主催試合後の電車待ち渋滞緩和策、スタジアム周辺への周遊につなげたい

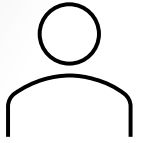
（森の京都DMO事務局）
「この地域に来て、元気になって帰ってもらおう」という考え方が、実は従来からある。
亀岡市内でもここ1、2年で農家民宿が増加。南丹・綾部でも知識豊富で意欲的な民宿がある。



スタジアム訪問者に地域の魅力を知ってもらう仕組みづくり（コンシェルジュ機能）

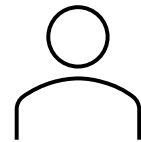
（当然ながら）地域で実際に事業をしている人の声をよく聞いて施策立案を

(補足) 施策の方向性についての考え方



- 現実的な施策、経営意識（収益性）の観点
（即効性の高い集客イベントを重視。
福祉分野との連携等は収益性の観点から懐疑的）

- スポーツやスタジアムを、幅広い住民のQOL向上・共生の
核として考える観点
（スタジアムの公共施設としての機能を重視
スタジアム・スポーツを社会課題の解決に活用し、そこには
公的な資金や寄付等も大きく貢献）



- これらは二者択一ではなく、それぞれ重視していくべき考え方
- 今回提案では、幅広い社会問題解決も視野に含んだ、府立公園を舞台
に府だからこそできること、という視点をまず大事にした上で、収益
性等にも目配りした施策を目指したい